

# 陽だまり通信

市民福祉活動団体  
「陽だまり」事務局  
東広島市高屋ケ丘八―三―六  
(0824)391-1778



## 平成十三年度陽だまり定例総会開かる

陽だまり定例総会が開かれた。今年度は発足後初めての総会であった。今年度は発足後初めての総会であった。開催日程も二回にわたり、開催場所も高屋地区・西条地区の二箇所に分けて開催した。いずれも四月十五・二十二日に開かれた。以下総会の状況を二会場まとめて報告することとする。

陽だまり定例総会が開かれた。今年度は発足後初めての総会であった。開催日程も二回にわたり、開催場所も高屋地区・西条地区の二箇所に分けて開催した。いずれも四月十五・二十二日に開かれた。併せて総会当日の状況を二会場まとめて報告することとする。

当日開会にあたり西岡代表の挨拶があった。そのあらましは次のとおりである。  
「春のうららかな天気恵まれて陽だまりの総会を開くことができたことを感謝します。  
私たちの市民福祉団体

入陽だまりV発足六ヶ月が過ぎ、初めての年度を迎えることができました。今日まで、たくさんの方の協力をいただき、また理解を賜りながら仕事を進めていくことができました。時には失敗もありました。今までの皆さんに喜んで頂けるのだろうか。一抹の不安を抱きながらもスタッフ一同頑張ってきました。うれしいことに、今年度共同募金助成金の交付が決定しました。  
東広島市福祉課からは地域サロン助成金として協力をいただき、仕事の依頼等についても公共の施設などからも問い合わせ



カッパ音の響

せを頂いたり、少しずつですが陽だまりの暖かい光がひろがっているのかな、などと思っていまふ。これからは皆さんと共に陽だまりの会がより発展していきますようスタッフ並びに会員一同頑張つて参ります。今後共によりしくお願いたします。つづいて、平岡副代表が総会当日の模様について述べることにする。

### 平成13年度陽だまり事業計画

月	事業実施内容
4月	○ 総会 4月15日(日) 高屋地区(杵原下集会所) 4月22日(日) 西条地区(御建シャワー室) ○ 平成13年度会員登録
5月	○ 陽だまり通信 第2号発行
6月	○ 研修会1-「陽だまりからみた地域福祉」 講師-西岡・廣瀬・市川の三氏
7月	○ 研修会2-「8020をめざして」 講師-高屋クリニック歯科医 藤中千恵美氏
8月	○ 陽だまり通信 第3号発行 ○ 研修会3-「カウンセラー「心を開く接し方」 講師-教育アドバイザー 廣瀬 吉夫氏
9月	○ 研修会4-「基本介護技術-「ベットまわり・トイレの世話」 講師-交渉中
10月	○ 研修会5-「地域福祉の課題とまとめ」 講師-交渉中
11月	○ 福祉健康まつり
12月	○ 陽だまり通信 第4号発行
1月	
2月	
3月	○ 陽だまり通信 第5号発行

※ 研修会は「市民のための地域福祉講座」として一般に解放

「新緑をさらに引き立てるかの如く山つつじが可憐な紫色の花で野山を染めている良い季節の、日曜日、陽だまりの第一回総会を開催いたしました。当日は、年度始めの月であることや、天候にも恵まれたために参加者が

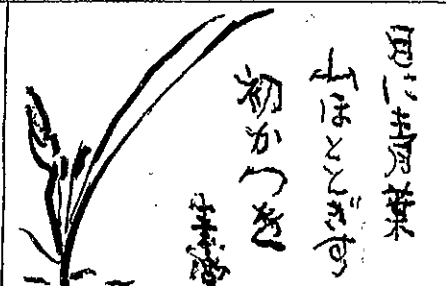
少ないのではないかと、スタッフ一同心配しておりましたが、定刻前になると多数の会員が参集され、安堵すると同時に感謝した次第です。総会の進行にはスタッフの未熟さも手伝い、幾度も方向修正しながらも会員の支援にたすけられながら、和気あいあいのうちに全ての議案が満場一致で承認されました。総会を終えてみて、次の総会に向けて如何に出席率を上げるかということについて努力をしていかなければならない。そのためには日常的に会員相互のコミュニケーションが必要であるかという

ことを痛感した次第です。要は、地域の人がこの地に住んで本当によかったというように誰でもいえるような「陽だまり」の会にするべく心新たにした次第であります。会員の皆さまにおかれましては、お気づきの点、またアイデアなどございましたら事務局に「ご報告」をお願い申し上げます。つづいて総会のすべてについて報告すべきではあるが、詳しくは会員のものと文書ですべてに報告しているのを割愛することにする。しかし、今年度の事業計画については改めて掲載して、会員の

皆様の協力をお求めたためです。ご協力をお願いいたします。

### 陽だまり抄

宮沢賢治の「手帳より」のなかに、雨ニモマケズという詩が収められている。よく知られているが「応挙けておく。▲雨ニモマケズ/風ニモマケズ/雪ニモ夏ノ暑サニモマケズ/丈夫ナ身体ヲモチ/欲ハナク/決シテイカラス/イツモシズカニワラツテキル/一日ニ玄米四合ト/味噌ト少シノ野菜ヲタベ/アラユルコトヲ/ジブンヲカンジョウニイレズニ/ヨクミキキ



ヒデリノトキハナミダヲナガシ/サムサノナツハオロオロアルキ/ミンナニデクノボートヨバレ/ホメラレモセズ/クニモサレズ/サイウイウモノニ/ワタシハナリタイ▲賢治の死後発見されたこのメモ帳にこの詩人の人生の集大成を見るような気がする。▲併せて昨今よくいわれるボランティア精神の観点からこの詩を読み返してみると大変に興味深いと思うのだがどうだろう。(まろ)

陽だまりの活動！障害者生活支援センターのご案内

障害者支援センター「かもみーる」―社会福祉法人つづじ内ーのニュースレター「ポケット」に、陽だまりのことが載せられている。ポケットのスタッフ中村さんが、わざわざ事務局に取材に來られ、陽だまりの活動を紹介してもらった。

陽だまりがスタートして半年が過ぎました。手探りで始めた活動ですが、会員の皆さんに支えられ、昨年度は予想をはるかに越える多くの方々に利用していただきました。総会での事業報告にもある通り、要望の一番多かったサービス内容は「見守り(介護)」と「通院介助」です。特に「通院介助」に多くの会員の皆さんからの依頼が寄せられました。半年間、通院

平成12(2000)年7月発行 発行人 さぼーとせんたー かもみーる 〒739-0001 国東町西条 50-1 つづじ内 Tel: (0824) 24-17

おじゃましま〜す！

このコーナーでは、地域の様々な団体・グループ・機関を紹介していきます。まず、は…

有料在宅福祉サービス「陽だまり」

「陽だまり」は地域の人がお互いに助け合うことを趣旨とした、会員制のサービス事業です。一方が協力者、一方が利用者というよりは地域に住む、会員同士で助け合う関係。障害者、高齢者といった見方ではなく、家庭生活ですべての人に起こりうるさまざまな困りごとに対してサービスを提供しています。



Q. 陽だまりを発足させたきっかけは？

もともとはボランティア活動で知り合った人たちが自分たちの活動を見直し、このままの活動でよいのだろうか、地域で生活していくうえでの困り事は障害の有無、高齢、に関係なく、だれにでもあるのではないかと、という思いが募りだしてきていました。けれども、本当に自分たちだけでいいのか、公的機関のバックアップが必要なのではないか、という不安もありました。そんな時、竹原の「ほのほの」の活動を知り、見学に行きました。そこで、「民間でやっているところは少ないが、思いさえあれば、できる!!」と励まされ、思い切った始めました。始めは、ぼちぼちやっていこうと思っていたのですが、口コミであっという間に広がって、現在では87名の登録があり、(うち半数が協力者として登録)改めて地域で自分たちの活動が必要とされていることに気づかされました。

Q. ずいぶん料金も安いのですが…

そうですね、年会費1,000円、利用料700円/月です。その中で協力者に支払われる協力費が600円、あとの100円は事務費です。協力者はボランティア保険に加入しますので、そのお金もこの中から支払いますから、事務費はほとんどありません。ですが、誰にでも利用しやすい、気軽に参加できる設定になっています。

Q. 依頼はどういった内容のものでもよいのですか？

はい。基本的には、その方の生活で困っていることをお手伝いさせていただくことになっています。内容は家事支援、介護支援、育児支援、外出支援です。現在利用の多いのは、見守り、日常生活の雑務、などなど。原則月～金の9時から17時までですが、時間外でも受け付けています。ホームヘルパーの業務では難しいことや、ちょっとした頼みごとを気軽に安心して利用できるサービスです。ですが、お互いに助け合う仕組みですので、どうしても協力者の都合がつかないときもあり、お断りすることもあります。お互いに無理をしないで、できることは精一杯やって、できないときにはごめんなさい。刘等の立場で、出会った人は友達。いろんな人といろんな出会いがあり、それが楽しく仕事を続けていくコツだと思います。

Q. 今後の抱負などをお聞かせください

これからやりたいことはいっぱいあります。追いつかないくらい!!今は毎月1回の交流会を企画中です。9月はお月見だんごを作って食べよう、10月は秋の味覚を味わおう、この他にも、夏休みにピーズで小物を作ったり、絵手紙を書いたり、会員の方だけでなく、地域に住む方と一緒に楽しんでいます。また、機関紙を発行したり、送迎用の(車椅子も乗れる)車をゲットしたい、などなど夢はどんどん膨らんでいます。とはいえ、まだまだ始まったばかりなので、わいわい楽しく、1歩づつコツコツと歩んでいこうと思います。

本当に熱い夢をもった方々で、これからは地域と一緒に活動をしていきたい、と語っておられました。お伺いしたときも時間の経つのを忘れるほど楽しく、たくさんのお話を聞かせていただきました。



のお手伝いをさせていただいて私が感じたのは、交通の便の悪い地域にくらしている方々の外出の困難さです。片道二千元から三千元にもなるタクシー代は、大変な負担です。しかし、命に関わることであり、病院に行

かない訳にはいきません。会員の皆さんにとってはまさに死活問題だったと思います。また、行政サービスの

族の方に何か起こった時に、家族全員が困ってしまうという事も少なくなかったようです。寄せられた相談の中には、介護保険のサービスを受けている夫のことはできて、病気の妻の手伝いはしてもらえない、というのがありました。このようになご家族で、何日もコンビニのお弁当を食べて

いたというケースもあります。陽だまりは、会員の皆さんの生活全体をみていきます。生活はいろいろな要素の連続であり、いつてみれば複合体であるため、きれいに区切られるものはありません。会員の皆さんだけのことでないサービスではなく、会員の皆さんの生活に関わることならできたいと考えています。ですから、何か困ったこと

が起きたら、なんでも気軽ににご相談ください。また、よりよい会にしたいためにもお気づきのことがありましたら、ご意見を事務局までお寄せください。お待ちしております。

な自然が、私たちの心を慰めてくれるように、人との小さな出会いが、心に温かいものを残してくる、そんな気がしています。昨年、秋に、偶然陽だまりの会を知り、何人かの役を立てることがあれになりまして。この会を通じて、役員の方の「お互いにお互いに助け合える」という熱意が伝わり、とても共感出来ました。私は、通院介助をさせて頂いておりましたが、介護保険導入等で、本当に困っている人達が、真心のこもったサービスをだんだん受けることが難しくなっている現状を痛感しています。

との出会いで、そうではないということに気づかされました。病院までの、行き帰りの、何気ない会話から、ふと心が和んだり、話を聞いて頂いているうちに、自分がない面を見つめることが出来て、物事の考え方を、色々な側面から見られるようになりました。こういった経験が、自分のこれからの人生を豊かにしていつてくれるものと思っています。

二十世紀になっても、暗いニュースが多く、人の気持ちにならなくなってきている時代に、陽だまりの会等で活動されている善意の輪が、だんだん広がり、それが大きな輪となって世の中を変えていける力になることを望んでいます。

事務局長 市川マヤ

会員の広場

H・M



佳木依枝日記

初夏の到来を見聞する今日この頃ですが、会員の皆さんいかがお過ごしでしょうか。

陽だまり通信第二号をお届けいたします。会員の皆さんから、たくさんのお原稿をお寄せ頂きありがとうございました。